

2012年度の事業概要

協会の4事業年度目を迎えた2012年度は、認定ファンドレイザーの誕生と、初めて 1000 人規模で開催したファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本2013」が大きな成果となった。

2011年度後半に創設した認定ファンドレイザー資格制度は、准認定ファンドレイザーのための必修研修の受講者がこの2年度で800名を超え、今年度2回行った検定試験の結果228名の「准認定ファンドレイザー」が誕生した。また、准認定ファンドレイザー資格保有者のうち、さらに実務経験3年以上、上級の必修研修2日間を受講したものが受験することのできる「認定ファンドレイザー」についても、第1回の検定試験を経て、16名の認定ファンドレイザーが誕生した。これによって、これまで協会が蓄積してきたファンドレイジングに関する「知」と「人材」をさらに拡大、集約できた。資格保有者には協会が行っている諸事業での企画、登壇、原稿執筆などで活躍してもらい、各々が団体内でのファンドレイジングに成果を上げるのみならず、「ファンドレイザー」という仕事が社会にとって重要な役目を果たしていることの可視化が図れた。

認定ファンドレイザー資格制度は、当協会のミッション「民間非営利団体に対する寄付という行為が高く評価され、民間非営利団体において資金開拓を担うファンドレイジング（資金調達）担当者が、誇りと自信をもって仕事を遂行し、また、寄付者が幸せと満足を実感できる新しい寄付社会を創造する。」の達成に向けた重要な試金石であり、今年度、その事業展開が順調に進んだことは大きな成果と言える。

また、第4回目を迎えたファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本2013」では、昨年比300名増の1000名を得て、全50セッションを提供することができた。

加えて、「新しい公共」の関連事業に、業務委託の3県を含めた13県で参画。地方展開の強化が図れた。なかでも、昨年度に引き続き業務委託を受けた「第2回ファンドレイジング・ジャパン in こうち」では、当協会の企画のもとに330名の参加を得て、地方でのファンドレイジングイベントの成功事例として定着した。

また、一昨年度に公立中学・高校の4校で実証実験を、昨年度は9校でモデル授業を展開した子どもたちのためのフィランソロピー教育「寄付の教室」は、今年度は10校で実施。地域の教育現場での寄付者教育を本格化させることができた。

本事業完了時点で、総収入は約8459万円(前年度5895万円)(内、日本財団助成金:2350万円)を得、次期繰越金は約2735万円となり、財政の強化を図りつつある。日本財団の助成金以外の自主獲得財源として6109万円(全体の72%)を得たことで、自主財源比率を確実に伸ばしている。

※2011年度は自主財源3245万円(全体の55%)

2010年度は自主財源1800万円(全体の35%)

2009年度は自主財源1210万円(全体の31%)

本年度の実施事業項目は下記の通り。

<1> 日本ファンドレイジング協会の組織基盤強化

1. 事務局体制の強化
2. 総会・理事会の開催
3. 支援者組織化
4. 広報
5. その他

<2> 寄付文化の醸成及び非営利組織の資金開拓力の強化

1. 研修事業
2. ファンドレイジング大会の開催
3. 出版事業
4. 普及啓蒙事業
5. 認定ファンドレイザー制度
6. その他

<事業内容>

<1> 日本ファンドレイジング協会の組織基盤強化

1. 事務局体制の強化

職員雇用:

2012年5月に産休・育児休暇中の職員が職場復帰。2012年9月1日より、同年10月に産休・育児休暇に入る職員(2013年5月職場復帰予定)の補てんと認定ファンドレイザー制度の推進のために職員1名を新規雇用した。合わせてファンドレイジング大会開催などについて、必要時にアルバイトの雇用も行った。

2. 総会・理事会の開催

1) 総会開催

2012年6月22日に2012年度の通常総会を開催。前年度の決算と事業報告、今年度の予算と事業計画を決議した。

※ なお、この総会で設立当初より代表理事を務めていた堀田力氏が理事を退任。総会後の理事会で理事の互選によって常務理事・事務局長であった鵜尾雅隆が代表理事に就任。鵜尾の代表理事就任に伴い、事務局次長の徳永洋子が事務局長となった。

2) 理事会開催

今年度は、下記のとおり、5回の理事会を開催した。

2012年

5月31日:第14回理事会

- 1) 2012年通常総会議案書の決定
- 2) 会員規約の修正
- 3) その他

6月22日:臨時理事会

- 1) 代表理事の選任

7月19日:臨時理事会

- 1) 副代表理事の選任

2013年

1月15日:第15回理事会

- 1) ファンドレイジング大賞の決定
- 2) 理事会選定認定ファンドレイザーの決定
- 3) 諸規定についての検討と決議
- 4) その他

3月22日:第16回理事会

- 1) 2013年度暫定事業計画・暫定予算の決定
- 2) 認定ファンドレイザー検定試験委員会について
- 3) 社会貢献力検定及び社会貢献力検定準備委員会について
- 4) その他

3. 支援者の組織化

1) 会員拡大

会員数は、個人・法人をあわせて、718人となり当初の目標500人を上回った。

2013年3月31日現在の会員数は下記のとおり。

運営会員	賛同会員(個人)	賛同会員(NPO)	賛同会員(企業)	総数
70	595	51	2	718

また、会員の継続率を上げるために期限切れ1か月前には継続依頼レターを、未納金者には期限切れ1週間前、さらに権利喪失直前にメールにて継続を依頼。その結果、一般的に継続率が低いとされる「1年目」においても7割の継続を維持した。

2) ボランティアの組織化

「JFRAボランティアデー」を中心に積極的にボランティア参加を募り、協会の活動紹介、交流とともに

に、折々、ジャーナルの発送、セミナー、ファンドレイジング大会等で協力を得た。特に、ファンドレイジング大会では、50余人のボランティアが大会の開催準備と当日の運営に協力した。

2012年

7月31日(火)19:00-20:30

事項:代表理事挨拶状発送作業

8月28日(火)19:00-20:30

事項:ファンドレイジングセミナーチラシなど発送作業

10月25日(木)19:00-20:30

事項:FRJ2013DM 発送作業

10月30日(火)19:00-20:30

事項:FRJ2013DM 発送作業

11月22日(木) 19:00-20:30

事項:FRJ2013 アイデア出し

12月21日(金) 19:00-20:30

事項:FRJ2013 ボランティア会議

2013年

1月29日(火)19:00-20:30

事項:FRJ2013 役割分担

2月15日(金)19:00-20:30

事項:FRJ2013 参加者名札制作

2月19日(火)19:00-20:30

事項:FRJ2013「ファンドレイジングの森」準備

3月5日(火)19:00-20:30

事項:FRJ2013 運営マニュアル確認

3)プロボノやインターンの活用

研究会やセミナーの報告文作成(大学生・インターン)、認定ファンドレイザーの研修における教本作成などで専門性のあるボランティアに協力してもらった。

4. 仮認定NPO法人格の取得

東京都より、2013年3月15日に「仮認定特定非営利活動法人として仮認定した旨の通知書」を

手交され、仮認定NPO法人となった。

5. 広報

1) マスコミ報道実績

協会では、これまでに接触のあったマスコミ関係者に対して、折々、個々に協会の活動に関して情報提供をし続けている。その結果、「寄付に関して」の取材を受けることが多々ある。2012年度も多くの取材を受けた。取材後に報道された実績は以下の通り。

2012年

- 4月 5日 明日の友「今日を読む-寄付を考える」
- 4月23日 日経ビジネスONLINE「寄付を促進する新金融商品が伸び悩む理由」
- 5月11日 日本経済新聞「資金調達専門家 NPOや大学に」
- 6月12日 東海テレビ「根付くか、寄付文化」
- 6月20日 毎日新聞「リアル30's 分け合う『仕組み』を」
- 6月24日 読売新聞「寄付 気軽に自分流」
- 8月 5日 日経ヴェリタス「草の根マネーを掘り起こせ4-善意の寄付循環させて社会を変えよう」
- 8月14日 読売新聞「震災寄付金 用途明確に」
- 8月19日 日経ヴェリタス「寄付—ふるさと納税被災地へ1800億円」
- 8月22日 日経ビジネスONLINE「『ファンドレイザー』というお仕事—NPO活動に欠かせない役割とは」
- 9月10日 BSジャパン「社会を変えるお金の使い方」
- 10月30日 毎日新聞「特集ワイド:被災者へ、と送った「あのお金」の行方」
- 12月11日 日本経済新聞 電子版「寄付で社会とつながるには年末こそチャンス」
- 12月15日 毎日新聞「市民活動を後押しする制度作りを」
- 12月19日 毎日新聞「震災寄付 国内6000億円」
- 12月21日 朝日小学生新聞「震災で倍増 日本人の寄付」
- 12月25日 朝日新聞「震災で寄付 日本人の77%~NPO推計 国内外で計6千億円」
- 12月29日 日本経済新聞「被災地への寄付、総額6000億円で 民間調べ」

2013年

- 1月11日 NHK「ニューテラス関西」
- 1月20日 朝日新聞日曜版(Globe)「年800億円の休眠口座、活用を 銀行の利益より、社会支援に」
- 1月21日 福祉新聞「ファンドレイジング日本「ファンドレイジングは新たな地平へ」」
- 1月24日 朝日新聞「寄付文化の芽、日本にも」
- 2月 3日 読売新聞「寄付の授業 社会との接点学ぶ」
- 2月10日 大分合同新聞「「めじろん共創応援基金」創設記念シンポジウム」
- 2月15日 THE WALL STREET JOURNAL「Rebuilding A Fish Market Thanks To A Golden Stranger」
- 2月22日 高知新聞「寄付通じ社会変えよう 県内初 多ノ郷小で特別授業」
- 3月 2日 読売新聞「古本を寄付 非営利団体支援」
- 3月19日 毎日新聞「非営利団体の「ファンドレイジング」活発 寄付いろいろ 共感得やすく」

- 3月24日 読売新聞「被災地への寄付減少 継続支援促す取り組みも」
- 3月30日 佐賀新聞「日本を一つに展覧会」実行委に特別賞」
- 3月30日 日本経済新聞「日本人、寄付に及び腰？」
- 3月30日 中国新聞「慈善事業の心 広響から学ぶ」

2)CANPANブログでの情報発信

協会の公式ホームページとは別に、CANPANブログにて、「事務局便り」と題して、協会の動きなどを掲載。1年間で243本のブログ記事を掲載した。

3)その他

Facebookに協会のページ、及び「ファンドレイジング・日本2013」のページを開設して、折々情報発信と支援者との交流を図った。

<2> 寄付文化革新事業

1. 研修事業

1)ファンドレイジングセミナー開催(全3回)

一般向けセミナーとして、広くNPO関係者などを対象としたセミナーを3回開催した。

第1回

開催日:2012年9月27日

講師名:中原美香氏、樽本哲氏

タイトル:「NPOのリスクマネジメント」

第2回

開催日:2012年10月31日

講師名:坂本文武氏

タイトル:「利他的行動論」

第3回

開催日:2012年11月28日

講師名:谷口隆太氏

タイトル:「社会を変えるキャスティング」

2)ファンドレイジング研究会開催(全9回)

「ファンドレイジング研究会」は、当協会の会員を対象として、NPOの資金調達改善の事例研究やス

キルアップ研修を実施することを目的とするもの。

この研究会は、相互の学びあいの環境を担保するために人数を25名程度としている。参加型で開催することで、ノウハウや知見の集約共有を図っている。

研究会終了後には「1時間1本勝負」と題した懇親会を開催。毎回、ほとんどの参加者が参加し、講師を加えて参加者間の交流やフィードバックの場になっている。

なお、地方会員の参加要望に応じて、12月からは Ustream 配信を開始。ネット参加を実現した。開催回数は初年度からの累積で表示。

第26回

開催日:2012年4月10日

講師名・タイトル:水谷衣里氏「ソーシャルファイナンス最前線～日本の社会投資・コミュニティファンドの今、そしてこれからの可能性」

参加者数:34名

第27回

開催日:2012年5月8日

講師名・タイトル:多賀俊二氏、露木尚文氏「擬似私募債を活かしたファンドレイジング徹底解説」

参加者数:40名

第28回

開催日:2012年7月10日

講師名・タイトル:平野祐司氏、為末大氏、青木崇行氏「スポーツ分野のファンドレイジング」

参加者数:44名

第29回

開催日:2012年9月11日

講師名・タイトル:小林洋志氏「NPOのブランディング～思いを伝える形とは」

参加者数:38名

第30回

開催日:2012年10月9日

講師名・タイトル:熊沢拓氏「ソーシャルインパクト指数、徹底解説！～自分たちの活動を数値化して見える化する方法」

参加者数:37名

第31回

開催日:2012年11月13日

講師名・タイトル: 山元圭太氏「かものはしプロジェクトにみる発展段階に応じた『トータルファンドレイジング』」

参加者数: 26名

第32回

開催日: 2012年12月11日

講師名・タイトル: 石川圭氏、田中洋子氏、町井則雄氏、間辺初夏氏、山崎美加氏、徳永洋子「世界ファンドレイジング大会報告会」

参加者数: 27名(内訳: 13名+Ustream14名)

第33回

開催日: 2013年1月8日

講師名・タイトル: 鶴尾雅隆「寄付10兆円時代の実現に向けて～世界の潮流を日本の時代の変化を踏まえて、2020年に向けて起こること、起こしたいこと(鶴尾が未来を語ります)～」

参加者数: 30名(内訳: 19名+Ustream11名)

第34回

開催日: 2013年2月12日

講師名・タイトル: 青木将幸氏「ファンドレイジングに効くファシリテーションスキル実践体験型研修！」

参加者数: 18名(内訳: 9名+Ustream9名)

3) 委託事業によるもの

今年度は政府の「新しい公共」施策を受けて、全国の自治体が新しい公共支援事業を展開。その中で、協会は、千葉県、山形県、埼玉県、高知県のファンドレイジング推進事業に業務委託を受けて参画した。

■千葉県ファンドレイザー育成講座(485万円)

千葉県内のNPO/NGOや中間支援組織など24団体を対象に、県民・企業等に活動への共感と理解を得ることで資金調達を果たす「ファンドレイザー」を育成するための研修事業を実施。全9回の研修では、最後に各自が取りまとめた自団体のケースを持ち寄り発表し助言しあうセッションと個別相談会を実施した。参加者満足度が4.2(最高点5点の5段階評価)となったほか、参加者からは「毎回、課題提出が多くて苦勞もしたが、各回のワークショップを通じて自団体の抱える課題の解決策が見出せた」「個別相談でこれまでの悩みが解決された」という声を得た。加えて、本事業では前年度の同県からの委託事業で行った調査をもとに、同県内13団体について「ファンドレイジング事例集 in ちば」にまとめて300部作成し県内のNPO/NGOに配布した。

■山形県ファンドレイジング講座(山形市・鶴岡市 各2日間)(315万円)

平成23年にNPO法及び所得税法などの改正によりNPO法人に対する寄付環境が整いつ

つあった中で、認定NPO法人格の取得と寄付募集に関するノウハウを学ぶ「ファンドレイジングセミナー（全2日間）」を山形県内2つの地域に分かれて県下のNPO/NGO・公益法人等のスタッフ等101名に対して実施した。「ファンドレイジング概論」「ソーシャルメディアを活用した寄付募集」「企業経営（ディズニーランド）から学ぶファンドレイジングと人材育成」からなる全体セッションに加えて、「認定NPO法人を目指すワークショップ」「資金調達プランを立てるワークショップ」という2つの選択型分科会を設定。参加者の振り返りでは「ディズニーランドの顧客満足度向上と人材育成の講演から支援者満足度やスタッフのモチベーション向上の秘訣を学べた」「初日終了後、さっそくReadyForのクラウドファンディングに登録した」「あきらめかけていた認定取得に取り組むことにした」といった、ファンドレイジングに関する積極性が啓発された内容の感想を多く得た。

■埼玉県「平成24年度南部地域NPOパワーアップ講座事業」（10万円）

2月25日（月） 13：30-15：30 「ファンドレイジング入門」

■高知県ファンドレイジング推進事業（200万円）

2013年3月2日（土）「第2回ファンドレイジング・ジャパンinこうち」を開催する中で、NPO/NGO等の活動に欠かせない資金調達に関わる新しい社会の動きや、様々な分野でのファンドレイジングに関わる取り組みの事例など、イベント参加者が新しい気づきや学びを得られるような内容の企画及び開催までの調整、9つの分科会のコンテンツ提供を行った。なかでも市内を走る路面電車を貸し切って車内で行った「街角のファンドレイジング」セッションでは、同イベントを協賛する企業担当者とNPO/NGO関係者を同乗させ、身近なところに社会貢献の事例があることを車窓から街を眺めながら2時間で約30事例を紹介。企業とNPO/NGOの連携の可能性を具体的に示すことができた。こうした企画の結果、地方開催のイベントにもかかわらず300余名の参加を得て高い評価を得た。

2. ファンドレイジング大会開催

1) 概要

2013年3月9日・10日、両国の国際ファッショセンターにて、第4回目となるファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本 2013～ファンドレイジングは新たな地平へ～」を開催し、全国から1000名の参加者を得た。

今回はアメリカからインディアナ大学ファンドレイジングスクール校長のティモシー・セイラー氏を招へいし、基調講演を行った。2日間の全50セッションでは、ファンドレイジングのノウハウ、ツール、成功事例などが発表された。

クロージングセッションでは、「第4回日本ファンドレイジング大賞」の発表があり、「特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International」が受賞した。あわせて、今回は「第4回日本フ

「ファンディング大賞 特別賞」として佐賀県の高校生による「「絵画で日本を一つに展覧会」実行委員会」が受賞した。

この大会の運営には約 50 人のボランティアが協力。また、認定ファンドレイザー、准認定ファンドレイザーが司会、ファシリテーターをつとめた。

協賛団体・企業による展示ブースコーナーでは、ファンディングに有効なサービスやグッズが紹介され、参加者の人気を集めた。

書籍販売コーナーでも、講師の著書を中心に、約 60 種の書籍を委託販売し、好評を得た。

2) 大会開催への他団体・企業からの協力

■助成

日本財団
公益財団法人トラスト 60

■特別協賛

日本マイクロソフト株式会社

■協力

アメリカ合衆国大使館

■協賛

セールスフォース・ドットコム ファンデーション
株式会社ファンドレックス
株式会社エースデザイン
株式会社バリューブックス
かごしま寄附募集支援事業（マチトビラ）
久米繊維工業株式会社
合同会社コース・アクション
ソフトバンクモバイル株式会社
ソリマチ株式会社
ダイレクトマーケティング ジャパン株式会社
日本ペプシコーラ販売株式会社
株式会社ビープラウド
株式会社フェブ
NPOサポートセンター
株式会社ディーネット

■後援

内閣府

外務省

在日米商工会議所

特定非営利活動法人NPO会計税務専門家ネットワーク

特定非営利活動法人NPO事業サポートセンター

社会福祉法人大阪ボランティア協会

公益社団法人企業メセナ協議会

公益財団法人公益法人協会

特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）

独立行政法人国際協力機構JICA地球ひろば

特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

公益財団法人助成財団センター

東京ボランティア・市民活動センター

特定非営利活動法人日本NPOセンター

公益社団法人日本フィランソロピー協会

特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

3)その他

大会の記録として、ビデオを作成。このビデオは、DVDとして関係者に配布した。

3. 出版事業

1)寄付白書2012

一昨年度創刊した寄付白書の今年度版として「寄付白書2012」を経団連出版から創刊した。

今号での特集では「東日本大震災への寄付」を盛り込んだ。このことで、出版後にはマスコミ報道時での引用など、広く活用されることになった。

2)ファンドレイジングジャーナル、「FUNDRAISING」

季刊誌として、ファンドレイジングジャーナル、「FUNDRAISING」を第11号～第14号までの計4号を発行した。

第11号

2012年4月発行

特集:ファンドレイジング・日本2012／認定ファンドレイザー制度始まる！

第12号

2012年7月発行

特集:新しい公共支援

第13号

2012年10月発行

特集:ファンドレイジング・日本2013

第14号

2013年1月発行

特集:International Fundraising Congress報告／ファンドレイジング・日本2013

※このジャーナルは会員へ会員特典として配布。その他に会員外での定期購読者数 78名。
また、協会の各種イベントなどでバックナンバーも含めて販売している。

3)ファンドレイジングブックレットの発行

ファンドレイジングジャーナルの連載などを中心に今年度は下記の2つのブックレットを発行した。
今後もこれまで協会が蓄えてきた各種コンテンツを、こうした形でまとめ上げて提供していきたい。

■Fundraising Booklet Series No2

ファンドレイジング最前線

■Fundraising Booklet Series No3

改訂版 ファンドレイジング入門～7つのステップ 中期計画のたて方～

4. 普及啓蒙事業

1)フィランソロピー教育「寄付の教室」

協会では、一昨年度に公立中学・高校の4校で実証実験を、昨年度は9校でモデル授業を展開した子どもたちのためのフィランソロピー教育「寄付の教室」は、今年度は10校で実施。地域の教育現場での寄付者教育を本格化させることができた。

開催日:2012年11月20日

学校名:広島県竹原市立大乘小学校

参加者数:17名(1クラス)

開催日:2012年11月29日

学校名:福岡県立若松高校

参加者数:146名(4クラス)

開催日:2012年12月1日

イベント名:いいこと いっしょに いきいきフェスタ★2012(島根県松江市)

参加者数:40名(6～12歳)

開催日:2012年12月20日

学校名:高知県立高知東高等学校総合学科

参加者数:40名(1クラス)

開催日:2013年1月16日

学校名:福岡県北九州市立赤坂小学校

参加者数:37名(1クラス)

開催日:2013年1月19日

学校名:福岡県北九州市 私立折尾愛真高校

参加者数:46名(福祉コース3学年合計)

開催日:2013年1月24日

学校名:愛知県名古屋市 私立椋山女学園大学附属小学校

参加者数:58名(2クラス)

開催日:2013年2月19日

学校名:高知県須崎市立多ノ郷小学校

参加者数:80名(3クラス)

開催日:2013年3月13日

学校名:北九州市立鞆ヶ谷小学校

参加者数:24名(1クラス)

開催日:2013年3月29日

学校名:広島県福山市 私立福山暁の星女子中学・高等学校

参加者数:50名(室内管弦楽部 1~5年生)

5. 認定ファンドレイザー制度

協会では、設立当初より、日本の非営利民間セクターに対する寄付市場拡大に資するため、ファンドレイザーのスキル向上、高度な倫理観を有するファンドレイザーの育成、後進の指導や健全な寄付市場の形成に向けて指導的立場に立つ人材の育成を目的として認定ファンドレイザー資格認定制度の発足をめざし、2011年10月にリリース。

この制度は、「准認定ファンドレイザー」と「認定ファンドレイザー」の2段階の資格からなる。それぞれに用意された「必修研修」を受け、ファンドレイジングに関する協会主催のセミナー(大会も含む)や、各地で行われるファンドレイジング関連研修を受けて一定のポイントを得ることで受験資格が得られる。

1)この資格制度については、次の「認定ファンドレイザー資格認定制度資格」の通り。

	准認定ファンドレイザー	認定ファンドレイザー
スキル	組織の成長戦略、寄付・会費・助成金を得るための戦略や基本スキル	組織の成長戦略、寄付・会費・助成金に加えて、事業収入、補助金や融資なども含めた総合的な財源調達スキル
実務経験	未経験者も可	ファンドレイジング関連の有償実務経験 3 年以上
試験実施	年 2 回	年 1 回
受験資格	以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・満 18 歳以上 ・資格試験実施日から起算して過去 5 年以内に当協会が実施する「准認定ファンドレイザー必修研修」を受講している ・資格試験実施日から起算して過去 5 年以内に当協会が実施または認定する「選択研修」を 9 ポイント以上受講している 	准認定ファンドレイザー修得者のうち、以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・満 18 歳以上 ・ファンドレイジング関連の有償実務経験 3 年以上 ・資格試験実施日から起算して過去 5 年以内に当協会が実施する「認定ファンドレイザー必修研修 2 日間」を受講している ・資格試験実施日から起算して過去 5 年以内に当協会が実施または認定する「選択研修」を 6 ポイント以上受講している
必修研修受講の条件	以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・満 18 歳以上 	以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・満 18 歳以上 ・ファンドレイジング関連の有償実務経験 3 年以上 ・准認定ファンドレイザー資格を有する ・当協会の会費滞納がないこと
研修ポイントの有効期限	研修終了日（複数日の連絡セミナーの場合は最終日）の 5 年後応当日	
資格認定の条件	以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・受験資格を充たす者が、当協会が実施する准認定ファンドレイザー資格試験に合格する ・当協会の個人会員である 	以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・受験資格を充たす者が、当協会が実施する認定ファンドレイザー資格試験に合格する ・当協会の個人会員である
資格の有効期限	新規資格取得又は更新日より 5 年間	
資格の更新	更新には以下の条件を満たす必要がある <ul style="list-style-type: none"> ・当協会の個人会員として会員資格を有し年会費の滞納がないこと ・資格取得時又は前回更新時より 5 年以内に、新たに選択研修 20 ポイント以上の研修を受講している 	

2) 認定ファンドレイザー資格試験に関連して下記の研修を自主開催、他団体協力のもとに開催した。

■認定ファンドレイザー必修研修

2012年9月24日(月)～25日(火) 19名 2012年10月6日(土)～7日(日) 23名

■准認定ファンドレイザー必修研修

2012年4月27日(金) 24名 2012年10月6日(土) 48名
2012年5月27日(日) 37名 2013年3月1日(金) 10名
2012年6月11日(月) 52名 2013年3月8日(金) 202名
2012年9月14日(金) 33名

■選択研修(協会主催の分)

2012年4月28日(土) 27名

戦略的な大口寄付獲得(伊藤美歩)
寄付白書徹底解説(大石俊輔)
遺贈寄付の実務(早坂毅)

2012年5月28日(月) 30名

共感CM(イノウエヨシオ)

2012年6月9日(土) 72名

オンライン・ファンドレイジング(菅文彦)
助成金の獲得戦略(徳永洋子)
ソーシャルメディアの活用(山田泰久)

2012年6月10日(日) 67名

オンライン決済システム(江崎礼子)
ツールの作成(徳永洋子)
法律家から見た行動基準(樽本哲)

2012年10月5日(金)午前 54名

認定NPOを取得するためのポイント徹底解説(関口宏聡)

2012年10月5日(金)午後 68名

会員制度徹底解説(徳永洋子)
寄付白書から読み解く高齢者の寄付行動(大石俊輔)

2012年10月31日(水) 21名

ミッション、ビジョンの明確化でファンドレイジング力を向上させよう!(徳永洋子)
寄付10兆円時代の実現に向けて(鶴尾雅隆)

■ 選択研修(他団体の協力による研修)

2012年6月14日～9月6日

東京都

特定非営利活動法人パブリックリソースセンター
NPO実践マネジメント入門講座第1期(通信講座)

2012年7月27日

千葉県

千葉県

ファンドレイジング戦略をつくるためのプログラム

2012年7月31日

広島県

広島県／特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター
非営利組織の資金調達セミナー

2012年8月6日～10月26日

東京都

特定非営利活動法人パブリックリソースセンター
NPO実践マネジメント入門講座第2期(通信講座)

2012年8月23日

山形県

特定非営利活動法人山形創造NPO支援ネットワーク
ファンドレイジングセミナー

2012年8月25日

佐賀県

特定非営利活動法人佐賀CSO推進機構
ファンドレイジング佐賀モデル事業第1回第2回

2012年9月19日

静岡県

株式会社ウイズダムバンク
9月19日ファンドレイジング入門講座

2012年9月20日

佐賀県

特定非営利活動法人佐賀CSO推進機構
ファンドレイジング佐賀モデル事業第3回第4回

2012年10月2日～12月26日

東京都

特定非営利活動法人パブリックリソースセンター
NPO実践マネジメント入門講座第3期(通信講座)

2012年10月4日

静岡県

株式会社ウイズダムバンク
10月4日ファンドレイジング入門講座

2012年10月12日

静岡県
株式会社ウイズダムバンク
10月12日ファンドレイジング入門講座

2012年10月18日

佐賀県
特定非営利活動法人佐賀CSO推進機構
ファンドレイジング佐賀モデル事業第5回第6回

2012年10月27日

群馬県
群馬県・群馬NPO協議会
認定NPO法人支援連続講座(ファンドレイザー養成編その1)

2012年10月29日

島根県
ふるさと島根定住財団
いきいきフェスタ事前研修「島根NPOパワーアップ研修」～基本プログラム～

2012年10月31日

島根県
ふるさと島根定住財団
いきいきフェスタ事前研修「島根NPOパワーアップ研修」～共感CM作り～

2012年11月15日

島根県
ふるさと島根定住財団
いきいきフェスタ事前研修「島根NPOパワーアップ研修」～基本プログラム～2回目

2012年11月17日

島根県
ふるさと島根定住財団
いきいきフェスタ事前研修「島根NPOパワーアップ研修」～共感CM作り～第二回目

2012年12月11日～2013年3月8日

東京都
特定非営利活動法人パブリックリソースセンター
NPO実践マネジメント入門講座第4期(通信講座)

2013年1月12日

群馬県
群馬県・群馬NPO協議会
認定NPO法人支援連続講座 ファンドレイザー養成編

2013年1月24日

広島県
広島県/ひろしまNPOセンター
非営利組織の広報発信力強化研修「第1回」

2013年1月25日
広島県
広島県/ひろしまNPOセンター
非営利組織の広報発信力強化研修「第2回」

2013年2月21日
広島県
広島県/ひろしまNPOセンター
非営利組織の広報発信力強化研修「第3回」

2013年2月22日
広島県
広島県/ひろしまNPOセンター
非営利組織の広報発信力強化研修「第4回」

2013年3月2日
高知県
高知県ボランティア・NPOセンター、高知市市民活動サポートセンター
ファンドレイジング・ジャパンinこうち

2013年3月14日
広島県
広島県/ひろしまNPOセンター
非営利組織の広報発信力強化研修「第5回」

2013年3月15日
広島県
広島県/ひろしまNPOセンター
非営利組織の広報発信力強化研修「第6回」

■ 准認定ファンドレイザー試験

2012年6月30日 お茶の水女子大学

受験者数 215名

合格者数 183名

認定者数 181名

2012年12月1日 東京大学駒場キャンパス

受験者数 62名

合格者数 47名

認定者数 47名

■ 認定ファンドレイザー試験

2012年12月1日 東京大学駒場キャンパス

受験者数 38名

合格者数 16名

認定者数 16名

6. その他

1) 講師派遣

今年度も、各地からの講師派遣依頼を受けて地域でのファンドレイジングの発展に貢献することができた。

ひろしまNPOセンター

「非営利組織の資金調達セミナー」

2012年7月31日(火)10:00-15:00

いずみ会計事務所

「日本の寄付」

2012年8月3日(金)14:00-16:00

ふくしま地域活動団体サポートセンター

「地域活動団体等の活動基盤支援事業」福島市会場

2012年9月3日(月)13:30-15:30

ふくしま地域活動団体サポートセンター

「地域活動団体等の活動基盤支援事業」相馬市会場

2012年9月4日(火)13:30-15:30

マチトビラ

「NPOと地域団体のための「寄付」「プロボノ」活用フォーラム

2012年9月8日(土)14:00-15:30

ふくしま地域活動団体サポートセンター

「地域活動団体等の活動基盤支援事業」喜多方市会場

2012年9月10日(月)13:30-15:30

ふくしま地域活動団体サポートセンター

「地域活動団体等の活動基盤支援事業」白河市会場

2012年9月11日(火)13:30-15:30

富山県民ボランティア総合支援センター

「NPOマネジメント力向上講座」

2012年9月20日(木)14:00-17:00

全国被害者支援ネットワーク

「平成24年度秋期全国研修会」

2012年9月29日(土)13:00-16:30

株式会社ウイズダムバンク

静岡県新しい公共支援事業「ファンドレイジング入門講座」(西部)

2012年10月4日(木)14:00-16:00

株式会社ウイズダムバンク

静岡県新しい公共支援事業「ファンドレイジング入門講座」(中部)

2012年10月12日(金)17:00-19:00

東海道・吉原宿

「公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会 NPOプレゼント講座2012(東部地域)」

2012年10月13日(土)14:15- 16: 45

福岡県新社会推進部社会活動推進課 NPO・ボランティアセンター

「ふくおか共助社会づくりフェスタにおける認定取得促進イベント」

2012年10月14日(日)14:00- 17: 00

群馬NPO協議会

「認定NPO法人連続支援講座 第1回(ファンドレイザー養成編)」

2012年10月27日(土)10:00-12:00

山形県庄内総合支庁産業経済部産業経済企画課社会起業家育成研究会事務局

「社会起業家育成講座」

2012年11月3日(土)14:30-17:00

特定非営利活動法人市民未来共社

「寄付促進に関わるNPO等支援事業」

2012年11月16日(金)18:00-20:00

2012年11月17日(土)13:00-15:00

2012年11月18日(日)13:00-15:00

文化庁美術学芸課

「第2回ミュージアム・マネジメント研修」

2012年12月13日(木)13:00-14:30

おおいた共創基金

おおいた共創基金創設記念シンポジウム

2012年12月13日(木)13:00-14:30

ひょうご市民活動協議会

ひょうごNPO研究会 第5回「寄附文化を進めるためには？」

2013年1月7日(月)18:00-20:30

地域から国を変える会

ファンドレイジング勉強会

2013年1月9日 20:00-21:30

外務省

平成24年度NGO研究会国際協力NGOのファンドレイジング～資金調達の真髓を探る！～

2013年1月17日(木)13:00-17:00

内閣府

「困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民間団体職員研修」

2013年1月29日(火)9:30-12:30

外務省

平成24年度NGO研究会国際協力NGOのファンドレイジング～資金調達の真髓を探る！～

2013年2月1日(金)13:00-17:00

まつやまNPOセンター

認定NPO法人になろう講座「活動資金がずーっと集まる仕組みづくり」

2013年2月9日(土)13:30-15:30

茨城NPOセンター・コモンズ

茨城県NPO組織基盤強化プロジェクト

2013年2月15日13:00～17:00

国際ボランティア学会

国際ボランティア学会第14回学術大会

2013年2月16日(土)13:40-15:00

せたがや文化財団生活工房

ファンドレイジングセミナー

2013年2月19日(木)18:30-21:00

山梨県ボランティア協会

ファンドレイジングセミナー 会費寄付金の集め方講座

2013年2月22日(金)13:30-16:30

八王子NPOパワーアップ実行委員会

第3回八王子会議

2013年3月16日(土)13:00-16:00

日本生産性本部

東京都ひきこもり支援団体セミナー「NPOの資金調達と法人会計」

2013年3月18日(月)17:30-18:40

さわやか福祉財団

袋井寄付文化研究シンポジウム

2013年3月22日(金)19:00-21:00

2)「ファンドレイジングネット」の運営と終了

2010年4月に、オンラインコミュニティ「ファンドレイジングネット」の運営が、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会から移管された。今年度も引き続き運営。

運営する中で、昨今の Facebook などの無料ソーシャルメディアの台頭をふまえ、独自のシステムをコストをかけて運営する必要性を検討。その結果、今年度をもって「ファンドレイジングネット」を終了することとし、これまでの参加者などに通知。2013年3月31日に閉鎖した。今後は、Facebook上に協会ページ、イベントごとのページなどを開設して情報発信、支援者とのオンライン上の交流の場とする。

3)海外のファンドレイジング協会との連携

日本における唯一最大のファンドレイジング協会であることを内外に示すために、海外のファンドレイジング協会との連携を深めている。また、今後、認定ファンドレイザー資格制度においても、他国と連携して、国際的にも通用する資格制度としていくことを企図している。

また、昨年度より、国際組織「Resource Alliance」の国際ファンドレイジング大賞の候補推薦団体となり、今年度、2010年度「日本ファンドレイジング大賞」受賞団体の「あしなが育英会」を推薦したところ、同会の玉井義臣会長が「ファンドレイザー大賞」を受賞。国内のマスコミでも報道された。

<2012年度に達成したこと>

1)支援者拡大

会員数が、個人・法人をあわせて、718人となり、当初の目標500人を上回ったこと。また、4年目を迎えたボランティアデーを通じてボランティア登録者が138人となった。そのうち50人がファンドレイジング大会のボランティアとして活動協力。大会開催については企画の段階から参加してもらい、作業ごとにリーダーを置くことでボランティアの組織化も進んだ。

2)新しい価値の創出

初年度からの継続事業に加え、フィランソピー教育「寄付の教室」の事業化と認定ファンドレイザーの誕生を通じて日本にこれまでなかった新しい価値を生み出す取り組みをスタートさせることができた。

3)寄付市場形成主体としてのポジション確立

白書の出版を重ね、講師派遣などで各地での研修事業を行ってきたことから、「寄付については日本ファンドレイジング協会に聞けばわかる」ということとなり、協会に関するマスコミ報道が増え、国際会議への参加、大会への米国からの講師招聘などを通じて、海外のファンドレイジング協会との交流も深まり、国内外に「日本の寄付市場形成主体」としてのポジショニングを確立した。

4) ファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本2013」の成功

メインイベントと位置付けているファンドレイジング大会、「ファンドレイジング・日本2013」を、参加者1000人規模に拡大して開催することができた。

開催に際して、日本マイクロソフト株式会社(50万円)、日本ペプシコーラ販売株式会社(10万円)、ソフトバンクモバイル株式会社(10万円)、ソリマチ株式会社(10万円)、セールスフォース・ドットコム ファンデーション(10万円)などの大企業の協賛に加え、米国大使館(1万ドル助成)、内閣府(後援)、外務省(後援)、米国商工会議所(後援)といった、社会的な信頼を補強する支援を得ることができた。

5) 認定ファンドレイザー、准認定ファンドレイザーの誕生

協会設立初年度から、海外の制度について情報収集、研修コンテンツの蓄積などを続けてきたことから、その成果をもとに、昨年度にち密な制度設計と研修コンテンツの作成がなかった。

これによって准認定ファンドレイザーのための必修研修の受講者が現時点で800名を超え、今年度6月と12月に2回行った検定試験の結果228名の准認定ファンドレイザーが誕生した。

また、今年度初めて開催した認定ファンドレイザーの必修研修(2日間)を経て、12月の検定試験の結果、16名の認定ファンドレイザーも誕生した。これによって、これまで協会が蓄積してきたファンドレイジングに関する「知」と「人材」をさらに拡大、集約できた。

資格保有者には協会が行っている諸事業での企画、登壇、原稿執筆などで活躍してもらい、各々が団体内でのファンドレイジングに成果を上げるのみならず、「ファンドレイザー」という仕事が社会にとって重要な役目を果たしていることの可視化が図れた。

6) 自主財源の拡大

総収入は約8146万円を得、次期繰越金は約2787万円となり、財政の強化を図れた。日本財団の助成金以外の自主獲得財源として5796万円(全体の71%)を得たことで、自主財源比率を伸ばすことができた

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

(単位:円)

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

自 平成 24 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日

《経常収支の部》

[経常収支の部]

【経常収入】

事業 収入

大会	17,527,297
研修会	968,000
ジャーナル発行	612,230
認定ファンドレイザー資格	8,165,575
寄付白書販売	1,445,187
講師派遣等	5,057,057
委託事業収入	16,947,551

助成金収入

日本財団	23,500,000
その他助成金	1,199,120

会費収入

運営会員	1,188,000
賛同会員	5,752,000

寄付金収入

一般寄付	1,886,216
Giving Japan 基金	340,000

受取利息収入	2,895
--------	-------

経常収入 計

84,591,128

【事業費】

期首棚卸高	5,043,619
-------	-----------

期首商品・製品棚卸高	5,043,619
------------	-----------

大会

補助作業員給与(アルバイト給与)	673,290
会議費	6,051,596
業務委託費	1,802,137
諸謝金	1,804,500
印刷製本費	3,656,364
旅費交通費	577,303
広告宣伝費	1,019,250
通信運搬費	258,370
備品消耗品	639,913
雑費	18,900

セミナー・研究会

通信運搬費	128,560
諸謝金	305,000
旅費交通費	64,240
会議費	111,840
雑費	339,032

ジャーナル発行

補助作業者給与	107,000	
印刷製本費	3,404,835	
通信運搬費	229,845	
旅費交通費	9,670	
諸謝金	668,000	
雑費	62,852	
寄付白書		
補助作業者給与	1,326,303	
印刷製本費	1,955,856	
委託費	6,965,200	
諸謝金	1,800,000	
雑費	1,884	
行動基準		
通信運搬費	25,935	
認定ファンドレイザー資格		
会議費	973,409	
諸謝金	942,165	
印刷製本費	2,475,788	
旅費交通費	99,030	
通信運搬費	652,880	
資料代	20,779	
雑費	15,200	
業務委託費	105,000	
補助作業者給与	4,269,523	
備品消耗品	764,713	
ファンドレイジングネット		
補助作業者給与	437,500	
資料代	378,000	
フィランソロピー教育		
補助作業者給与	2,212,000	
印刷製本費	355,181	
業務委託費	379,535	
諸謝金	107,840	
旅費交通費	371,797	
雑費	5,740	
その他事業支出(業務委託等)		
旅費交通費	1,809,577	
会議費	44,055	
諸謝金	2,584,617	
通信費	73,596	
業務委託費	1,041,840	
事業部門人件費	8,723,000	
当期事業費 計	62,850,440	
合 計	67,894,059	
期末棚卸高	△3,363,048	
期末商品・製品棚卸高	△3,363,048	
事業費 計		64,531,011
【管理費】		
補助作業者給与	2,156,086	

法定福利費	1,488,215	
福利厚生費	65,730	
通 信 費	649,854	
通勤費	793,370	
水道光熱費	214,877	
旅費交通費	673,700	
業務委託費	689,700	
研修費	502,732	
備品消耗品費	661,188	
資料収集費	12,221	
印刷 経費	541,056	
地代 家賃	2,407,860	
租税 公課	70,000	
諸 会 費	118,294	
支払手数料	1,877,327	
雑 費	6,271	
管理費 計		12,928,481
経常収支差額		7,131,636
[その他資金収支の部]		
【その他資金収入】		
その他資金収入 計		0
【その他資金支出】		
ソフトウェア購入支出	1,000,000	
その他資金支出 計		1,000,000
当期収支差額		6,131,636
前期繰越収支差額		21,221,635
次期繰越収支差額		27,353,271
《正味財産増減の部》		
【正味財産増加の部】		
当期収支差額	6,131,636	
ソフトウェア購入額	1,000,000	
正味財産増加の部 計		7,131,636
【正味財産減少の部】		
什器備品減価償却額	385,212	
正味財産減少の部 計		385,212
当期正味財産増加額		6,746,424
前期繰越正味財産額		22,462,181
当期正味財産合計		29,208,605

※1資金の範囲は流動資産及び流動負債とする。

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

(単位:円)

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

平成 25 年 3 月 31 日現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金	79,287	
普通 預金		
NPO 法人三菱東京 UFJ	1,657,590	
NPO 法人ゆうちょ銀行	8,759,892	
ゆうちょ銀行 3	1,598,171	
定期 預金	15,000,000	
現金・預金 計	27,094,940	

(売上債権)

未 収 金	3,535,000	
売上債権 計	3,535,000	

(棚卸資産)

棚卸 資産	3,363,048	
棚卸資産 計	3,363,048	

(その他流動資産)

前払 費用	774,890	
その他流動資産 計	774,890	

流動資産合計 34,767,878

【固定資産】

(有形固定資産)

什器 備品	214,250	
有形固定資産 計	214,250	

(無形固定資産)

ソフトウェア	1,155,984	
無形固定資産 計	1,155,984	

(投資その他の資産)

敷 金	485,100	
投資その他の資産 計	485,100	

固定資産合計 1,855,334

資産の部 合計 36,623,212

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金	6,549,912	
預 り 金		
従業員源泉	464,455	
報酬等所源泉	397,510	
その他	2,730	

流動負債 計 7,414,607

負債の部 合計 7,414,607

正味財産 29,208,605

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

(単位:円)

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

平成 25 年 3 月 31 日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	6,549,912
現 金	79,287	預 り 金	864,695
普通 預金	12,015,653	流動負債 計	7,414,607
定期 預金	15,000,000	負債の部合計	7,414,607
現金・預金 計	27,094,940	正味財産の部	
(売上債権)		【正味財産】	
未 収 金	3,535,000	正味 財産	29,208,605
売上債権 計	3,535,000	(うち当期正味財産増加額)	6,746,424
(棚卸資産)		正味財産 計	29,208,605
棚卸 資産	3,363,048	正味財産の部合計	29,208,605
棚卸資産 計	3,363,048		
(その他流動資産)			
前払 費用	774,890		
その他流動資産 計	774,890		
流動資産合計	34,767,878		
【固定資産】			
(有形固定資産)			
什器 備品	214,250		
有形固定資産 計	214,250		
(無形固定資産)			
ソフトウェア	1,155,984		
無形固定資産 計	1,155,984		
(投資その他の資産)			
敷 金	485,100		
投資その他の資産 計	485,100		
固定資産合計	1,855,334		
資産の部合計	36,623,212	負債・正味財産の部合計	36,623,212

監査報告書

2013年5月20日

NPO 法人
日本ファンドレイジング協会
代表理事 鶴尾雅隆 様

監事 浅野晋

同 脇坂誠也



私たちは、2012年度（2012年4月1日から2013年3月31日まで）の事業報告及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私たちは、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には質問を行った。また、財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、団体の業務は法令及び定款に基づき適正に処理されているものと認められた。

よって、私たちは、上記の業務報告書及び計算書類が、NPO法人日本ファンドレイジング協会の2013年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

